

巻 頭 言

組織変革のダイナミクス

太田立男（応用理学部門）

巻頭言を書くにあたって最近の愛知県技術士会会報を読み返してみた。技術士の諸先生が何を考え何を訴えてきたのかを知り、会報に書くネタを探すためであった。一言でいえば「顧客ニーズ」と要約できるように思えた。

愛知県技術士会の顧客といえば、今のところ 140 数名の会員であろう。表立った活動と言えば研究発表とワーキンググループ活動である。研究発表などへは概ね 30 数名、ワーキンググループへは 10 数名の参加者がみられる。幹事会メンバーが 20 名近くいることを考えると、ほぼ固定されたメンバーによる固定された活動といえなくもない。顧客が固客と同義となっていることは否めない。このことは一面では固客の仲良しクラブ（悪く言えば自己満足クラブ）といえなくもない。活動を支える幹事も善意に支えられたボランティアであり固客にならざるをえない側面がある。技術士会加入のメリットは、多種な分野の技術交流（異業種交流）が最大のメリットなのかもしれない。しかし、顧客にとって魅力がなければ離れていく現実を常にかかえている。弁護士、税理士のように技術士が独立した職業として確立するには多くの困難が伴うことは否めない。技術士会メンバーをみると現実に企業内技術士であるか、私を含め定年退職したシニアによる経営よりも名刺のための技術士が多くを占めている。会員増が活動目標の一つとなっている現実があるが、高齢化にともない会員数の頭打ち、漸減傾向をたどることも危惧されるし、将来においても現状が大きく変わる可能性は小さいと個人的には思う。このような状況を考えてときに「顧客ニーズ」を探り出すことの困難さを感じている。

さて、平成 15 年度第 2 回例会において中部大学寺澤朝子先生の講演「組織変革のダイナミクス」を拝聴した。150 名と言う中小組織の愛知県技術士会組織変革のダイナミクスとは何かの視点で講演をとらえてみた。組織は多様な欲求を持つメンバーで構成されており、メンバーは自己実現欲求が強い¹⁾。一つは物質的自己目的（組織が自分にどのようなメリットを与えてくれるかなど）の追求であり、一つは社会的自己目的²⁾（組織が楽しいからいる、組織が何らかの社会貢献をしている）の追求であり、組織は一人一人の欲求にあった組織にもっていくことが大切で、自己実現欲求の強い組織にあって顧客感動の組織運営の必要性が求められていた。しかし、すべてのメンバーに感動してもらえる組織運営は相当な困難を伴う。組織メンバーは、変革エージェントと野党的立場に分類される。これを愛知県技術士会にあてはめると、変革エージェント（固客、常連客³⁾）は、幹事及びその経験者（会員の 5 分の 1、約 30～40 人で定例会への出席者）であり、野党的立場（潜在客、見込み客、お客³⁾）は、残りの会員となる。変革エージェントの軸を野党的立場の方向へ移動させるのがマネジメントであり、次の変革エージェントを育てることができかどうか組織の長期的存続の鍵となると提言された。このことは野党的立場の人達が、次ぎのリーダーとなるような組織運営が必要であることを語っていると思った。ゆるやかな人間関係で成り立っている愛知県技術士会を魅力ある組織にするには、会員相互の情報交換と協働⁴⁾による解決が必要であるが、固客解消をすることも大切と個人的には思う。そのための思いきった方策（たとえば、幹事の半分は 2 年ごとに交代（固客を避ける）するなど）を検討する必要があるのかもしれない。第 2 回例会での寺田先生の講演を聞きながらこのような感想をもちました。

1) 愛知県技術士会会報 N0.42（花井先生記述文章）参照 2)、3) 愛知県技術士会会報 N0.54（跡部先生記

述文章)参照 4) 愛知県技術士会会報 NO. 53 (柴田先生記述文章)参照

「広場・湖海の土」 No.19 学べない環境と学ばない環境

間瀬 雅彦（建設/総合技術監理部門）

8月9日から17日まで、駆け足でフィリピンのゼネラルサントス市（ミンダナオ島の最南端）を訪問した。当初は中国（チベット自治区ラ薩市）を訪問する予定であったが、春先に発生したSARSの問題で急遽、フィリピンに目的地を変更し、ゼネラルサントス市を中心に地元の小学校、中学校、高等学校を訪問した。

最初に訪問した小学校はゼネラルサントス市の中心部から車で30分ほど離れた山の中にある児童数が約60名ほどの小さな学校である。校舎は藁葺きで、床は土間がむき出し、黒板はでこぼこ、机には大きな穴が開いている。決して恵まれた環境ではないが、山の中に生活の基盤を持つこの地の子供たちにとっては唯一の学校である。

校長先生の話では、その学校に子供を行かせることを嫌う親御さんが居るとのことである。貴重な働き手を学校に行かせては農作業に影響する。それが、学校へ行かせない原因と聞いた。かつて、日本にもそのような時代があったと聞かすが、フィリピンの山間部では現実問題として今なお、それが実存する。

そんな事情がどこにあるのかまったく関係ないように、教室では棲んだ眼をキラキラと輝かせ、私たちの話を真剣に聞く子供たちの姿があった。机は穴だらけでも、黒板はでこぼこでも、床が傾斜していても、雨が降れば水浸しになりそうな環境でも、真っ直ぐに前

を見る子供たちがいた。

私は、現在、専門学校で非常勤ではあるが教鞭をとっている。そこで多くの学生たちと接する機会があるが、多くの学生は恵まれた環境を実感していない。また、公共の場で厚化粧をする女高生や、ただ遊びたいからと進学し、何もしないまま卒業して行く多くの日本の学生を見ていると、わが国が本当に豊かであるのか、改めて考えさせられる。

学べない環境と学ばない環境、今一度真剣に考える時期ではないだろうか。

お知らせコーナー

●新日鉄名古屋製鐵所見学会中止の件

拝啓 益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃は愛知県技術士会の諸活動にご協力頂き有難うございます。

既に、新聞等でご承知かと思いますが、見学先の新日鉄名古屋製鐵所で9月3日事故が発生致しました。その後、見学が可能かどうか9月9日に相手先に確認を致しましたところ、1ヶ月先なので可能との返事を頂き、中部支部の会報と共に案内状を発送いたしました。しかしながら、9月24日遅く、見学先から10月14日の見学は諸般の事情から困難との連絡を頂きました。早速9月27日の愛知県技術士会の幹事会に報告し、検討した結果、新日鉄名古屋製鐵所見学は取止めることになりました。

見学会の取止めににつきましてお詫び致しますと共にご了解のほどお願い致します。

愛知県技術士会代表幹事 柴田素伸

●平成 15 年度 第 2 回例会

第 15 回「研究発表会」のご案内

日時：平成 15 年 12 月 20 日（土）

13：30～16：20（受付開始 13：00）

場所：名古屋市中企業振興会館

（吹上ホール）4 階 第 2 会議室

発表テーマと講演者：

代表幹事 開会挨拶 13：30～13：35

（1）講演 1（13：40～14：25）

「バイオテクノロジーの食品産業への利用」
安藤 記子氏（株）ミツカングループ本社・中
央研究所）／〔生物工学部門〕

（2）講演 2（14：30～15：15）

「避雷対策と落雷模擬実験（1）」

澤栗 裕二氏（SGC 澤栗技術士事務所）／
〔電気・電子部門〕

休憩（15：15～15：30）

（3）講演 3（15：30～16：15）

「中部国際空港の緑化計画」

山西 孝二氏（シンコンサルティング）／
〔建設部門〕

副代表幹事 閉会挨拶 16：15～16：20

参加費（資料代含む）：1,000 円（非会員
2,000 円）（当日会場でお支払い下さい）

申込み：E-mail または Fax にて、12 月 1
2 日（金）までに、下記中部支部事務局（松
田）まで連絡願います。

E-mail：g-chubu@asahi-net.ne.jp

Fax：052-533-1305

CPD：本研究発表会は CPD（継続教育）の
対象になります。当日、受講証明書を交付し
ます。

●平成 15 年度 地域産学官と技術士合同
セミナー

日時：平成 15 年 10 月 21 日（火）

（13：30～17：40）

（18：00～20：00）情報交換会

場所：ぱ・る・る プラザ岐阜 2 階

（JR 岐阜駅前）電話：058-269-4340

開会挨拶：（社）日本技術士会会長 清野茂次

基調講演その 1：「産学官民連携によるひとに
やさしい製品開発事例」

岐阜県生活技術研究所 試験研究所長

高田秀樹 氏

基調講演その 2：「街づくりにおけるユニバー
サルデザインの陥穽」

岐阜大学 地域科学部 竹内伝史 氏

パネルディスカッション「ユニバーサルデザ
インが未来を創る！」

パネリスト：

日進木工(株)代表取締役 北村 斉 氏

岐阜県生活技術研究所 高田秀樹 氏

プランニングディレクター 古田菜穂子 氏

日本技術士会中部支部長 辻 喜礦 氏

岐阜県技術士会顧問 渡邊好啓 氏

問合せ：岐阜県技術士会

電話：0583-79-0580

情報交換会参加希望者は参加費 5,000 円
を下記までお振り込みください。

十六銀行 各務原支店

（口座番号）普通 1345157

社団法人 日本技術士会中部支部

岐阜県技術士会 代表幹事 堀 与志男

(社)日本技術士会 中部支部 愛知県技術士会発行

愛 知 県 技 術 士 会 会 報

NGAH №55
2003.10.1

発行人 柴 田 素 伸
編集人 間 瀬 雅 彦
西 脇 正 倫

[愛知県技術士会会報の情報連絡先]

代表幹事 柴田素伸 〒492-8485 稲沢市中之庄町行燈18-86
TEL・FAX 0587-32-4758 E-mail: shibata-m@mvc.biglobe.ne.jp

●平成 15 年度 技術士開業ガイダンス

日時：平成 15 年 11 月 21 日（金）

9:00～17:00

場所：(財)名古屋都市センター14 階 第 3
会議室

プログラム：

9:00～10:30 降旗達生 氏

「針は天極を指す - 独立して成功するためには、明確な夢・目標を持ち、そしてそれに日付を入れることがもっとも重要です - 」

10:40～12:00 山口 工 氏

「新規事業開設に伴う諸問題解決します！」

12:00～13:30 昼食（懇親会を兼ねる）

13:30～14:50 山田厚志 氏

「生き方をデザインする - 戦略的開業のすすめ - 」

15:00～16:20 堀 与志男 氏

「具体的なコンサルティング業独特の事業計画、営業の仕方、コンサルティングの仕方、経理など」

16:20～17:00 質疑応答

参加費：15,000 円

申込み期限：平成 15 年 11 月 14 日（金）

問合せ：技術士会中部支部事務局

E-mail：g-chubu@asahi-net.ne.jp

Fax：052-533-1305

●静岡県技術士会と中部支部合同例会

日時：平成 15 年 10 月 25 日（土）

静岡県地震防災センター見学

場所：静岡県地震防災センター（静岡市駒形
通 5 丁目 9 番 1 号）

13:30～14:00 センターにて受付

14:00～15:00 講演

「切迫する東海地震」

15:00～16:00 施設見学

「地震体験・消火体験」

17:00～19:00 懇親会

例会参加費（1,000 円）

懇親会参加費（5,000 円）

会費は当日徴収いたします。

問合せ：技術士会中部支部事務局

E-mail：g-chubu@asahi-net.ne.jp

Fax：052-533-1305

●会員異動情報

〔入会者（敬称略）〕

秦 滋康（建設）8/08

伊藤 久（水道）8/08

青山 信治（建設/総合技術監理）8/13

小堀 英和（農業）8/21

川崎 哲夫（機械）8/14

高橋 孝廣（建設）8/25

阿部駿一郎（航空宇宙/総技監）8/29

進 義隆（建設）9/13

〔脱会者（敬称略）〕

なし

●編集後記

めっきり秋らしくなってきました。残暑が厳しかっただけにあっという間に秋が深まった感があります。

さて、今月から年末にかけて会報内でお知らせ致しましたが、愛知県技術士会の例会をはじめ、技術士会としての催しが目白押しです。どの企画も内容豊富でおもしろ企画となっております。

皆さま方の多数のご参加をお待ちしております。

(社)日本技術士会 中部支部 愛知県技術士会発行

愛 知 県 技 術 士 会 会 報

NGAH №55
2003.10.1

発行人 柴 田 素 伸
編集人 間 瀬 雅 彦
西 脇 正 倫

(編集委員一同より)

[愛知県技術士会会報の情報連絡先]

代表幹事 柴田素伸 〒492-8485 稲沢市中之庄町行燈18-86
TEL・FAX 0587-32-4758 E-mail: shibata-m@mvc.biglobe.ne.jp